

## P9 小児のう蝕活性試験の調査結果

The Results of a Survey on a Caries Activity Test in Children

○安東美幸<sup>1)</sup>、渡辺幸嗣<sup>2)</sup>、牧 憲司<sup>2)</sup>

Miyuki Ando<sup>1)</sup>, Koji Watanabe<sup>2)</sup>, Kenshi Maki<sup>2)</sup>

安東歯科医院<sup>1)</sup>

九州歯科大学機能育成制御学講座口腔機能発達学分野<sup>2)</sup>

Ando Dental Clinic<sup>1)</sup>

Division of Developmental Stomatognathic Function Science Department of Growth and Development of Functions Science of Health Improvement Kyushu Dental College<sup>2)</sup>

う蝕は生活習慣病の一種であり、そのリスクファクターを数量的あるいは質的に表すことは、う蝕予防を効果的に行う上で有効である。またう蝕に関しては地域特性が著しいため、ある地区におけるう蝕リスクの傾向を知ることが、乳幼児から老人に至る歯科保健を管理するために非常に役立つと考えられる。今回、平成17年12月から平成19年6月の期間で安東歯科医院に来院した6歳以下の子供（男446名、女457名、計903名）を対象に、う蝕活性試験（カリオスタッフ、デンツップライ三金社製）を行った。カリオスタッフは、口腔内の状態を試験液の色の変化によって判定するう蝕活性試験で、う蝕リスクの評価法として簡便且つ正確な方法と言える。測定方法は、被験者の上顎歯頸部歯垢をカリオスタッフ綿棒にて採取し、綿棒をそのままカリオスタッフアンプルに投入、恒温器で48時間培養した後、アンプルの色と色見本を比べて判定した。色見本はウイルデント社製の0～6までの7段階に分けたものを使用した。今回の調査において、統計処理上の問題から2歳以下は男女2つのグループとして取り扱い、各年齢別、性別で10のグループに分けて検討を行った。その結果、現在行われている歯科検診の実施時期に加え「4歳児検診の必要性」が確認できた。また検査結果に基づいた「対象別相対度数分布グラフ」の作製を行い、各個人に対応した歯科保健指導を可能にした。